

# 第41号

〒542-0072 大阪市中央区高津 2-8-10 末広ビル 502 号室  
Tel(06)6214-0753 Fax(06)6214-0755



## 第七十五回

# 公演会に向けて



▲ 三世相錦繡文章の稽古風景

当協会はその前身であります任意団体から数えて今回で七十五回の公演会の開催となります。協会の目的であります常磐津節の普及振興として年一回の開催を目指しております公演会、今回は

担当しております企画部より

常磐津の大曲「三世相錦繡文章」(さんぜそうにしきぶんしょう)の全曲を今年度と来年度に分けて演奏しようと言う計画が持ち上がりました。特に担当理事の都岳蔵氏の「常磐津の最大の武器である台詞劇をもっと習得しよう」と言うお考えから男性陣は昨年十二月から月一回協会事務所にて理事長「巴太夫師匠」にご指導を賜わっております。

又女流陣は富士山と三保の松原の世界遺産登録を記念しての曲「三保松富士晨明」(みおのまつふじのあけぼの)の稽古に五月より入りました。

いずれにしても十一月の公演会に向けて暑い夏の稽古を経て涼しくなった頃の演奏会、お客様に楽しんで頂けるよう稽古に励んでおりますのでご来場の程宜しくお願い致します。

広報部 常磐津綱男

## 第七十五回

# 常磐津節公演会

江戸より受け継ぐ伝統のひびき

司会 桂九雀 料金 ¥4,000

日時 平成26年11月15日(土)  
午後1時30分開場  
午後2時開演  
会場 国立文楽劇場小ホール  
TEL 06(6212)2531

### 三保松富士晨明

### 末広旭雛鶴

### 三世相錦繡文章

### 仲町福島屋の段

### 仲町福島屋の段

### 仲町福島屋の段

### 道行蝶吹雪

浄 美佐季 三半  
小都路 三麒  
一香音 上三都貴  
三都太夫 上三都貴  
三賀太夫 上三都貴  
若音太夫 上三都貴

長庵 欣勢太夫 小東矢  
七郎助 三代太夫 小欣矢  
お園 都代太夫 上三之祐  
お梶 巴瑠幸太夫 上三之祐  
箱廻し 若音太夫 上三之祐  
清兵衛 巴松太夫 上三之祐

七郎助 三賀太夫 都男史  
お園 都代太夫 都史  
清兵衛 欣勢太夫 都史  
お梶 巴松太夫 都史  
長庵 若音太夫 都史  
お松 三代太夫 都史  
お梶 欣勢太夫 都史  
清兵衛 人間国宝 都史  
長庵 一巴太夫 都史  
お園 小由太夫 都史  
箱廻し 都代太夫 都史  
六三郎 巴瑠幸太夫 都史

浄 三都貴  
お園 三都貴  
六三郎 三都貴  
洲崎堤の段 三由花 上三都貴

## 「素浄瑠璃」

常磐津都昆蔵

昨年(2019年)の第七十四回常磐津節公演会では「廓の仇夢」と「細石巖鶴亀」をまた久し振りに男性正会員ほぼ全員による「神路山色瑠」油屋の通しを演奏させていただきました。とくに油屋はセリフが主体の浄瑠璃ですので分かりやすく大入りのお客様にも十分に満足して帰っていただけたのではないかと思っております。

その日舞台の出番まで理事長と楽屋で半世紀も昔の公演会の思い出を懐かしく話しておりました。その頃の太夫・三味線の先輩師匠は皆さんそれぞれ個性が豊かで、浄瑠璃を語っていても役柄が彷彿と浮かび上がり本当に面白く聴ける太夫が大勢おられました。その大先輩の皆さんは関東大震災や戦災後関西に永住された方々でまだ江戸の名残の濃い昔の東京のことがよく話に出ていたようです。

時代も移り世代も変わってきた今、今年の公演会から何とかもう一度初心に立返り素浄瑠璃の勉強と協会の本来の目的である後継者の育成が急務と考え企画部として段物を勉強しなおすことに決定いたしました。そして同じなら常磐津を志す者の必須、常磐津屈指の大作「三世相錦繡文章」全段通しに取り組みたいと考えました。しかし演奏を本当に面白く聴いていただくにはなにより繰返し繰返しの稽古が急務です。その為最低一年を通しての稽古を月一回出演者が集まり一巴太夫理事長に教えていただくことにいたしました。では何故いま常磐津にとつて素浄瑠璃が大切かを少しお話しして見よ

うと存じます。

日本も戦後は豊かになり次第に踊りのお遊びが大層盛んとなりそれと共に素の演奏よりは踊りの伴奏に多くの時間をさきそれは今日までずーっと続いて来たように思います。仕事が忙しいことはたいへん有難いことなのですが反面浄瑠璃の勉強がどうしてもおろそかになってきました。常磐津節の面白さにはドラマ性があり聴く人にもその人物や場面また気持ちの奥底に機敏まで聴いてもらわねばなりません。その最大のエッセンスをみたく余裕が無くなってきたことはまことに残念としか言いがありません。

今日観客の皆さん方の殆どが常磐津は歌舞伎や踊りの伴奏の音楽と思われておられるのではないのでしょうか。確かに常磐津が今日あるのは歌舞伎によるところが最も大きいことは紛れもない事実です。しかし常磐津の前身が豊後節であり歌舞伎と結びつく以前の時代を考えた時、もっとも大事なことを見落としてはならないと思います。江戸時代、享保・元文のころの流言に

河東袴 外記袴 半太羽織に  
義太股引 豊後可愛や 丸裸

これは様々の浄瑠璃各流派を衣服に例えた言葉で常磐津の前身豊後節の特徴を如実に言い当て、います。この歌の直接の意味は人前できちんと衣服を身に着けている順序を言っているのに過ぎないのですが、しかし浄瑠璃の内容に及ぶ時そ

の意味は逆転します。人の気持ちの奥底を語る時堅苦しい着物を着ている様では到底語り尽くせません。江戸であまりにもリアルに語った豊後節は悪いことに時代は「享保の改革」の真只中、たちまち全面廃止に追い込まれ、残された多くの門弟の内養子であり直系の宮古路文字太夫が再起を期し、のち常磐津と改姓して歌舞伎と密接に繋がります。

また話はかわりますが「正本」とは流派の家元が専属の版元に限り許可した詞章の印刷本ですが江戸時代は木版で出来ておりそれはすなわち多くの人に販売されていたことを意味します。専門の先生方の研究によりますと初代文字太夫の時代すでに常磐津正本がつかわれていたことが立証されています。正本があることは稽古に使われていたことを意味しプロの素浄瑠璃もかなり早くから演奏されていたことに他なりません。否例え一時廃止の憂き目にあつたにせよ素浄瑠璃は豊後節から常磐津節へずつと続いていたと私は思っています。実際常磐津には歌舞伎の伴奏とは別に素の演奏の為の名曲が今日あまりにも数多く残されています。

豊後節が心中ものを語りそのリアルな表現が聴くものを酔わしめるため本当に心中事件を鼓舞し社会問題となる程の浄瑠璃はついに廃止に迫られそれが常磐津節誕生の直接の契機となったのです。このように豊後節の直系常磐津節の浄瑠璃は本来聴くものを魅了して止まないある意味恐ろしいまでの魔力を秘めている筈です。

その真価を發揮する素浄瑠璃の演奏は語れば語るほど人を感わす力を持っていますし、又その歴史の重さをひしひしと感じるこの頃でございます。

## 「世界遺産」

常磐津美佐季

世界遺産となりました、富士山と三保の松原。常磐津にも「三保松富士黎明」と言う曲が有ります。

東海道静岡(駿河)付近の名勝を題材として、河竹黙阿彌が明治三十二年頃作詞した美文で、作曲は五世岸澤式佐とあります。世界に誇る富士山と三保の松原その近辺の東照宮の御廟の在る久能山、薩埵峠、狐ヶ崎、賊機山、田子の浦等を叙景し優雅に出来た曲で今日は女流にてご祝儀曲として語らせて頂く事になり意味深く一層心をこめたと許すかぎり集りお稽古に励んでいきます。



▲ 三保松の稽古風景



▲ 三世相洲崎堤の稽古風景

### 「三世相洲崎堤の段 稽古所感」

常磐津三都由紀

三世相洲崎堤の段は、私の師匠であります三都造師、その後を引き継ぎ高知に来ていただきました三蔵師にお稽古していただきました。ドラマチックなこの曲を、聞き手に情景が浮かぶように、六三が土手に立ったときも六三になつて土手を見渡してから台詞を言うようにと教えていただいたことが思い出されます。

お園の一途な六三への思いが表現できればと思っております。出演します若い二人の弟子に二人の師匠から教えていただいたことを一つずつ伝えていきたいと思っております。

### 「関の扉」の舞台を訪ねて

常磐津麒六

前号の「油屋」(伊勢古市)に続き、今回の名曲の地を訪ねる旅は「関の扉」の舞台、墨染・逢坂の関をめぐりました。

4月6日(日)桜を求めての旅だというのに、当日は季節は逆戻りしたかのような寒さ。集合場所の京阪墨染駅には、春らしいスプリングコートをお召しの方やらダウン姿やら。それでも名古屋からの参加者など協会内外から8名、広報部5名の計13名での取材となりました。

まずは今回のメイン、墨染桜があるという日蓮宗 墨染寺へ。そもそも墨染桜とは、堀川左大臣 藤原経昭宣公が亡くなられて此の地に埋葬されるにあたり、家臣 上野峯雄(かんづけのみねお)が哀傷の情を和歌に托して

深草の 野辺の桜之心有らば

今年ばかりは 墨染に咲け

と詠んだことに由来します。それ以来、この一帯を墨染と呼ぶようになり、もともと清和天皇の勅創であった貞観寺というこの寺の名前も、秀吉によって墨染桜寺とあらためられたのだそうです。歌舞伎で見るとな堂々たる大木を想像していたのですが、現在の桜は三代目だということ、可憐な若木が静かな境内にひっそりとたたずんでいました。

時折小雨がちらつく中、近くの欣浄寺へ移動。ここは清涼山と号する曹洞宗の寺院で、本堂には「伏見の大仏」と呼ばれる立派な毘盧遮那仏が安置されていますが、当日はあいにく堂内で法要のまつ最中。コソソリと窓ごしに拝ませていただきました。この地はもともと深草の少将(四位の少将 良岑宗貞)の屋敷跡で、ここから山科の小野小町のもとへ百夜通ったという伝説で有名です。境内「小町姿見の池」のほとりには少将と小町の比翼塚と「墨染井」と呼ばれる少将遺愛の井戸があり、次のような歌がそえられていました。

通ふ深草 百夜の情

小町恋しの涙の水が

今も湧きます 欣浄寺

姿見の池のほとりの藪陰の道は「少将の通り道」と呼ばれていますが、「関の扉(上)」の歌詞にあるとおり、少将が通ったのは百夜ではなく、実は九十九夜。



小野とは言はじ恋草に 百夜通うて 誠を見せて 忍び車の榻(ひじ)に行く やつし姿の夜の道 いつか思は山城の木幡の里に 馬はあれども (中略)

行く夜の数も九十九夜 今は一夜ぞ嬉しやと 待つ日になれば先帝の 崩御と聞くに身の上の 恋も無常と立ち変はる

そのため、訴訟のある者がここを通ると願いがかなわないとか。行かれる方は御注意を。

次は檀木町。伊勢古市同様ここも残念ながら遊郭の名残は全くありません。大正時代に建てられたという碑がいくつか残るのみ。赤穂浪士の大石良雄が遊んだという「よろづや」もここにあったようです。



天候が怪しくなったため、徒歩での関越えはあきらめ、電車で逢坂の関跡へ。小倉百人一首で有名な蟬丸をまつる蟬丸神社にも立寄りしました。この蟬丸神社、この他に上社、下社もあり、それぞれ村社としての役割を果たしてきたとのこと。

また逢坂の関の関所のはっきりした所在地は現在も明らかになっていないようです。

そしていよいよ本日のお楽しみ、日本一のおなぎです。逢坂の関の碑のほど近く、創業明治五年という老舗、かねよ本店。一巴太夫理事長のご自宅からも近いということで、当日はお嬢さんと参加。皆で同店の看板メニューであるきんし井をいただきました。きんし井という名前ですが、いわゆる錦糸玉子ではなく、大きなう巻きと蒲焼きがたつぷりと乗ったボリュームのある鰻重で、一同大満足。お花見シーズンの日曜日、世間では消費税が値上げされた直後でお店はてんてこまいだったようですが、私達はゆつくりと鰻をたのしみました。



「関の扉」登場人物の実像  
常磐津三之祐

ここでは、関の扉に登場する三人の人物、良岑宗貞（僧正遍昭）・小野小町・大伴黒主の実像と関の扉との関わりについて「古今和歌集」撰者の一人である紀貫之が、序文「仮名序」に挙げた評を添えて記したいと思います。

良岑宗貞（僧正遍昭）

一歌のさまは得たれども、誠すくなし。例えば、絵にかける女を見て、いたづらに心を動かすがごとし。

僧正遍昭として現代に名を残す良岑宗貞（弘仁七年（816年）～寛平二年（890年））は大納言・良岑安世の八男で、桓武天皇の孫にあたる人物です。また子・素性も歌人として知られています。弟・

安貞についてはそのような名前の兄弟が見当たらないので、重重小町桜・関の扉のオリジナルでしょうか。

良岑氏は父・安世が初代で、良岑という姓を賜り、いわゆる臣籍降下をした一族です。

そのため宗貞も時の仁明天皇（関の扉の先帝）の蔵人として仕え、信任を得ていましたが、嘉祥三年（850年）に仁明天皇が崩御すると出家、遍昭となりました。

天台宗の高僧である円仁・円珍に師事。花山の元慶寺を建立、紫野の雲林院の別当を兼ねるなどしたのち、仁和元年（855年）に僧正となり、当時は花山僧正と呼ばれたようです。

また美男子であったとも伝わり、関の扉・上に百夜通いが織り込まれているように、深草少将のモデルとも言われています。

ちなみに関の扉で宗貞の最初のセリフが「雪降れば、冬ごもりせる草も木も、春に知られぬ、花ぞ咲きける」という歌になっていますが、これは遍昭の詠んだ歌ではなく、古今和歌集にある紀貫之の歌です。

関の扉の舞台が目には浮かぶようなこの歌を、あえて宗貞に詠ませるといふ作者・宝田寿来の手法に、当時古今和歌集をよく知る人はニヤリとしたのか、それともおかしいと言う人もいたのでしょうか。そんな観る人の様々な反応も踏まえたうえでの演出のようにも思えます。

小野小町

古の衣通姫の流なり。哀れなるようにて、強からず。言わば、良き女の悩める

所あるに似たり。強からぬは、女の歌なればなるべし。

知らない人はいないであろう美人の代名詞、小野小町ですが、最も有名であるとともに最も謎の多い女性かもしれません。生没年不詳、出身地不詳、本名不詳、と分かっている事の方が少なく、架空の人物説もあるほどです。

生没年については、宗貞とほぼ同世代であったようで、出身地は有名な出羽国（秋田県）の他にも地方を問わず全国各地に点在し、また墓所も同じように各地に点在しているのはつきりとしていません。

名前の通り、遣隋使小野妹子から連なる小野氏の人物で父親は出羽郡司・小野良真とされ、地獄通いで知られ、関の扉でも少し触れられる小野篁の孫と言われています。しかし、篁の孫とするには年代が合わず、篁の娘説もあるようです。本名については仁明天皇の更衣（後宮の女性）に小野吉子という人物があり、吉子本人、またはその妹（更衣の居住スペースのことを町と言ひ、そのまま女性の呼び名にすることがあった、妹なので小を付けて小町と呼ばれた）などの説があります。

また父とされる良真が出羽国郡司であること、篁も陸奥国に住んでいた時期があることなどが、小町が秋田生まれと言われる所以になっています。

とにかく歌以外の記録に関しては皆無と言つていいほどなので、美女・小野小町像を形作つていったのは前述の紀貫之による評の部分が大きく、後世六歌仙の名とともに知れ渡っていくうちにイメージされていったものなのかもしれません。

それが能や歌舞伎などを通して現代にいたるまで美人・小野小町を成立させているのですから、古今和歌集の影響力がうかがえます。

### 宗貞と小町の恋

関の扉で恋仲となっている宗貞と小町ですが「後撰和歌集」にこのようなエピソードがあります。

小町が石上寺（奈良県天理市、現存せず）に参詣し、泊まることになった際、そこに遍昭がいることを聞き、歌を送りました。

「岩の上に旅寝をすればいと寒し苔の衣を我れにかさなむ」（岩の上に旅寝をしたら寒くてなりません。僧衣を私に貸してくださいませんか）

これに対する遍昭の返歌が

「世を背く苔のころもは唯一重貸さねば疎しいぞ二人ねむ」（俗世を捨てた僧侶の衣は一枚だけしかない。しかし貸さないのもよそよそしい。さあ二人で寝よう）

関の扉・上で二人が関兵衛に馴れ初めを語るシーンがありますが、宗貞が百夜通いの話から「恋も無常と立ちかはる、君の菩提を弔はんと、位を辞して石の上

布留の御寺（石上寺）によもすがら、御経読誦の折りも折り」小町「私もそのとき母上の、後の世折る志、一夜ごもりに思わずも、お顔を見るよりぞつとして身に応え、後生菩提もどこへやら、捨てて二人

が一つ夜着、枕ならべて寝たれども、ア、イヤ、イヤ、立てし誓いは破られずと、ついそのままの憂き別れ・・・」

とあり、後撰和歌集の話から来ていることがうかがえます。二人の歌のやり取りが挨拶のようなものだったのか、本当に

「枕ならべて寝たれども」だったのかは分かりませんが、恋仲として登場させるには十分な色っぽいやりとりだと思えます。



欣浄寺境内・深草少将と小野小町の比翼塚

### 大伴（大友）黒主

―そのさまいやし。言わば、薪負える山人の、花のかげに休めるがごとし―

このように評されている関兵衛こと大伴黒主ですが、彼の評は他の二人と違い、歌のことよりも容貌を評されているようにも思えます。

また、舞台上の関兵衛が思い起こされるようでもあり「そのさまいやし」の評は、関兵衛の大まかなイメージモデルになっていると考えてもよさそうです。

能・草子洗小町に、小町との歌合せで小細工をして勝とうとする黒主が登場するなど、悪人・敵役としての黒主のイメージは早くから成立していたようですが、どのような人物だったのでしょうか。

実在の黒主について分かっている事柄は多くなく、近江滋賀群（大津市）の大友村主氏の人物で、貞観年間八五九年（八七七年）に園城寺（三井寺）神祀別当となり、歌人としては、大嘗祭に風俗歌、

宇多法皇の石山寺参詣に歌を献上して賞されたと伝わっています。

見頭して「中納言家持が嫡孫」と名乗る黒主ですが、家持とは言わずと知れた奈良時代の歌人、万葉集の編者大伴家持のことです。

家持の大伴氏は、黒主の時代には伴氏に改姓しており、実際の繋がりには無かつたようです。年代も百年以上遡るので、孫という設定も、作者・宝田寿来が同じ「おおも」とある高名な歌人同士からイメージしたのもかもしれません。

また、奈良時代から大伴氏が度々政争に関与し、死罪・流罪になった人物もいること。黒主の時代である貞観八年（八六六年）に政治事件、応天門の変が起こり、大納言・伴善男が流罪になっていることなど、この辺りの背景も、天下を狙う大悪人「おおも」の黒主の人物像に何らかの影響を与えているのではないのでしょうか。

いづれにせよ、分からないことの多い黒主の中で「そのさまいやし」の評から関兵衛という人物をつくりあげた宝田寿来の見事な筆が、傑作・関の扉を決定づけたのではないのでしょうか。そのくらい関兵衛という人物は魅力的な敵役と言えるでしょう。

当時、関の扉を観た江戸っ子たちは本当に万葉集の大伴家持の孫が六歌仙の大伴黒主で、彼は天下を狙った悪人だっただと思っていたかもしれません。黒主は六歌仙でただ一人、小倉百人一首に撰ばれていないのですが、それも「悪人だから一人だけ弾かれているのだ」と思われていたかも知れないと想像すると、何とも面白いものです。

## 協会だより

### 行事報告

常磐津節保存会講習会

平成26年2月14日（金）午後2時開演  
京都芸術センター講堂  
演目「神楽謡雲井曲穂（どんつく）」

浄瑠璃、小由 太夫 三味線 都 史

巴 留 幸 太 夫

三代 太 夫 上 調 子 三 之 祐  
若 音 太 夫

保存会会長の常磐津文字大夫御家元、お話をいただいた竹内道敬氏も終演後の茶話会に参加され、お客様と演奏者が打ち混じつての芸談を楽しみました。

第18回ときわぎ

平成26年2月23日（日）  
午後1時開演

大阪・国立文楽劇場  
小ホール

正会員のご門弟および教室会員の皆さんが熱演を競いました  
（演目・出演者は前号1面に記載）。



常磐津塚法要

平成26年4月4日（金）  
正午読経

大阪・寂光寺

（江口の君堂）  
今年も亡き先輩方を偲びました。



広報部と一緒に名曲の舞台を訪ねよう！  
—その2 墨染寺・逢坂関—  
平成26年4月6日(日) ※別掲報告をご覧ください。

第二回定時社員総会  
平成26年6月4日(水)  
午後1時半より  
大阪市立中央会館第1会議室

邦楽実演家連絡会議総会  
平成26年6月12日(木)  
東京・芸能花伝舎

広報部 常磐津綱男 出席  
竹内道敬議長が退任し相談役となり新しい議長に公益社団法人日本三曲協会会長の川瀬順輔さんが就任されました。

第59回芸団協通常社員総会  
平成26年6月20日(金) 東京・オペラシティ

広報部 常磐津綱男 出席  
役員の変更があり長年常務理事として芸能人年金に携わり功労がありました常磐津東蔵さんと芸団協創設に尽力がありました事務局長、常任理事として長年活躍された棚野正士さんが退任されました。総会の最後にお二人に対し野村萬会長より労いのお言葉がありました。又新しい理事に公益社団法人上方落語協会会長の桂文枝さんが初めて就任され、邦楽団体からは公益社団法人日本三曲協会会長の川瀬順輔さんが就任されました。会長のご挨拶にありました文化庁を文化省への合言葉に新たな体制で芸団協の活動に期待します。

個人報告

第七回常磐津綱男勉強会  
平成26年2月2日(日)  
午後1時半開演  
名古屋・今池ガスホール



常磐津節演奏者名鑑  
第3巻 近代1.. 幕末期から明治期まで

平成26年3月31日(月)  
常磐津節保存会発行。9世常磐津文字太夫監修。竹内有一(常磐津若首太夫)編著。文化庁補助事業として、創流期から現代までの実演家(物語者)の芸歴を調査中です。

第30回新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会  
(国立文楽劇場開場30周年記念)  
平成26年5月10日(土) 午後1時開演  
大阪・国立文楽劇場

夏狂乱」を演じました。  
浄瑠璃 巴瑠幸太夫 三味線 小欣矢  
三代太夫 小東矢  
若音太夫 上調子 三之祐

常磐津一巴太夫&権藤芳一 浄瑠璃の世界に遊ぶ  
—京都府文化賞受賞特別記念公演—  
平成26年5月30日(金) 午後5時半開演  
京都府立文化芸術会館

「恩愛晴関守」(宗清)  
浄瑠璃 一巴太夫 三味線 小欣矢  
巴松太夫 上調子 小東矢  
巴瑠幸太夫 三味線 小東矢

宗清と常盤御前を一人語り分け、受賞記念にふさわしい特別な舞台となりました。このほか、「一巴太夫作曲「睦月連理戀道行」を再演。権藤氏とのトークや交流もあり大好評でした。



第一回常磐津都代太夫の会  
たばね会二十年記念の会  
平成26年6月8日(日) 午前10時半開演  
京都・宮川町歌舞練場

「乗合船恵方萬歳」  
浄瑠璃 都代太夫 三味線 都岳蔵  
一佐太夫 都史  
三代太夫 上調子 三之祐  
若音太夫

このほか、母堂の三緒紫光さん・若柳吉翔さんによる「角兵衛」やご門弟の出演など盛りだくさんの記念会となりました。

行事予定

第75回常磐津節公演会  
平成26年11月15日(土) 午後2時開演  
大阪・国立文楽劇場小ホール



個人予定

第八回常磐津綱男勉強会  
平成26年11月2日(日) 午後1時開演  
京都府立文化芸術会館

演目：光源氏は氷水を食べたか、夕月船頭 廓八景、戻橋、うつぼ、竹生島、関の扉 常磐の老松

第六回伝統と創造シリーズ  
平成26年11月8日(土) 9日(日) 午後2時半開演  
滋賀県立文化産業交流会館

長栄座公演  
出演：常磐津一巴太夫  
大手前学院大学 常磐津一巴太夫講演  
平成26年11月10日(月)  
第10回記念として「うつぼ」を演奏

甲南大学 演劇祭  
演目「釣女」  
浄瑠璃 美佐季 三味線 三都貴  
重香音 重香音 六

重香音(さつき緑秀次)さんが舞踊指導をしている同大学歌舞伎文楽研究部の地方として演劇祭に参加します。詳細については近日中午に大学公式HP等で公開されますのでそちらをご確認ください。

表 彰  
常磐津一巴太夫理事長が、第32回(平成25年度)京都府文化賞特別功労賞を受賞されました。誠にありがとうございます。

会員異動

平成25年4月~12月

入会 賛助会員 橋本典子 (小欣矢門弟)  
吉澤佳子 (一巴太夫門弟)

死去 賛助会員 若林人仕

平成26年1月~6月

入会 正会員 常磐津満三郎  
賛助会員 遠藤肇 (綱男門弟)

退会 準会員 常磐津巴龍 (二巴太夫門弟)  
常磐津文字巴光 (小由太夫門弟)

賛助会員 青木達子 (二巴太夫門弟)  
玉川佳代子 (文藝太夫門弟)

死去 准会員 常磐津都喜久 (都喜蔵門弟)

広報部と一緒に名曲の舞台を訪ねよう！  
第三回

藤の源太・景清で詠われている生田神社と  
大森彦七で詠われている湊川の合戦に縁の地

日時 平成26年11月3日(月・文化の日) 集合 10:30  
集合場所 阪急三宮西口 マクドナルド前 参加費用 交通費・昼食代 (いずれも実費のみ)  
申込・問合せ 常磐津綱男 (電話:090-8200-6191 / メール:tuna-03@world.ocn.ne.jp)



阪急三宮西口 マクドナルド前 10:35出発 ▶ 生田神社 (10:40着・11:00発) 藤の梅・生田の森 ▶ 地下鉄三宮 11:05発 ▶ 湊川公園 11:15着 ▶ 徒歩約20分 ▶ 会下山 (11:40着・12:00発) 会下山は楠正成が陣を張った場所で湊川や和田岬が一望できます。 ▶ 徒歩約20分 ▶ 広蔵寺(楠寺) (12:30着・12:35発) 楠正成が自決した場所とされる寺 ▶ 徒歩約5分 ▶ 楠正成が祀られている湊川神社 (12:45着・13:00発) ▶ 徒歩約2分 ▶ JR神戸駅・私鉄高速神戸着(昼食はハーバーランドかモザイクで)

編集後記

朝の散歩の時、携帯電話からラジオを聞きつつ歩いておられます。最近あるラジオ番組から「成程!」と思った事があります。  
皆様は「知・好・楽」と言う言葉をご存知でしょうか、「知、こころ」と読みたいですね。中国の論語の一説らしいですが「知る者は好む者に如かず、好む者は楽しむ者に如かず」と言うのが原文なのですが「そのものを知っているだけの人は、そのものを好きになるにはかなわない。さらにそのものを好きになる人は好きで稽古している人にはかなわない。此れを我々の芸事に例え、と「単に教えるで稽古している人は好きで稽古している人にはかなわない、好きこそ物の上手なれ」と言う言葉があります。稽古してやる人にはかなわない」と言う事かなアと理解して、さて自分には如何だったかと考えてしまいいつも長い散歩となりました。

常磐津綱男